

わたしの妹

見能林小学校 四年

吉原 芽依よしはら めい

(敬称略)

わたしには二才はなれた妹がいます。食べ物が好きで、よくれいぞうこやおかしが置いてあるところをあさってお母さんに怒られています。わたしとおふろでいっしょに飛びこんで怒られたこともあります。わたしのことが大好きで、わたしにとって大切なそんざいです。

ですが、妹にはしよがいがあります。運動は苦手です。でも、苦算数の計算も苦手で、時間があるときはわたしが教えています。でも、苦手なことばかりではありません。とくいなことだっています。妹は絵が上手なのでいつもいろいろな絵をかいています。国語も好きで、文字を書くのがとくいです。妹はみんなと少しちがっていますが、わたしと同じように好きなこと、苦手なことがあるんだなと思っています。

わたしが三年生のとき、妹は一年生になりました。妹が小学校に入学する前は妹が入学してきたらいっしょに遊んだり、図書室で本を読んだりすることができると楽しみにしていました。でも、本当はちがいました。お母さんは「妹は『しえん学校』に行く。」と言いました。その日からなぜ妹はみんなとちがう学校に行くのか考えるようになりました。「支援学校」がどんな学校なのかわたしには分かりません。でも、これだけはぜつ対にまちがいないと思いました。それは学校がみんなとちがっても妹はわたしの大切な妹にかわりないということです。

わたしにはもう一人六才の妹がいます。次女と三女はよくけんかをしています。それはお母さんが次女ばかりで、自分を見てくれないと感じているからです。そのときわたしは三女に

「次女もなりたくてなったわけじゃないよ。」と言いました。相手の気持ちを考えずに「次女ばかり」といっておこるのはちがうと思うし、なにより保育園にそういう子がいても同じように「ばっかり」という言葉を言っただけでなく、今はちがいます。だれにでも苦手なこと、とくいなこと、とありますが、わたしは妹は苦手なことがほかの人より少し多いですが、それがわたしの妹のこせいです。

わたしたちはそれぞれこせいがあります。苦手なこと、とくいなこと、好きなこと、きらいなこと、人それぞれだと思っています。その中にはわたし

の妹のように苦手なことがほかの人より多い人もいます。その人たちも自分でできることをがんばっているのに、その気持ちも考えないで、その人のことをひていしたり、悪口をいったりするのはおかしいです。

わたしはこれから「人」を大切にしていきたいです。世界にはいろんなこせいをもった人がいます。みんながおたがいのことを大切にできる、明るい世界になればいいなと思っています。